

！双兇む恨を雇解

いきなり背後から一撃！

札付カマラ 邦人兄弟を襲ふ

四人 血みどろになつて格闘

【本報記者】本報が昨年報じた、邦人兄弟を襲つた事件が、先月、本報記者の取材で、事件の真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。事件は、去る五月廿七日午後七時、カマラ地方の山村で、邦人兄弟二人が、四人に襲はれた。犯人は、先月、本報記者の取材で、事件の真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

去る五月廿七日午後七時、カマラ地方の山村で、邦人兄弟二人が、四人に襲はれた。犯人は、先月、本報記者の取材で、事件の真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

【本報記者】本報が昨年報じた、邦人兄弟を襲つた事件が、先月、本報記者の取材で、事件の真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

眞ッ赤な大ウソ！

シユメリングはピンクくして

銃殺は例の英側宣傳

シユメリング

【本報記者】シユメリングは、去る五月廿七日、カマラ地方の山村で、邦人兄弟二人を襲つた。この事件は、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

相撲大會の花を賣る



【本報記者】去る五月廿七日、カマラ地方の山村で、邦人兄弟二人を襲つた。この事件は、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

奏でる温情の琴線

南大河州水害義捐金

四十七コント五百ミルに達す

【本報記者】南大河州の水害義捐金は、去る五月廿七日、四十七コント五百ミルに達した。これは、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

マカコ・ヴェーリヨ物語

山羊髭をとく翁長助成

輪湖俊午郎



【本報記者】去る五月廿七日、カマラ地方の山村で、邦人兄弟二人を襲つた。この事件は、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。



【本報記者】去る五月廿七日、カマラ地方の山村で、邦人兄弟二人を襲つた。この事件は、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

寒波猛威を揮ふ

ハラナ州では雪！

水害の後に

【本報記者】ハラナ州では、去る五月廿七日、寒波が猛威を揮ふ。ハラナ州では、雪が降った。これは、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

【本報記者】ハラナ州では、去る五月廿七日、寒波が猛威を揮ふ。ハラナ州では、雪が降った。これは、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

大會に一脈の新鮮味

前覇者の出場 正式に決る



【本報記者】去る五月廿七日、カマラ地方の山村で、邦人兄弟二人を襲つた。この事件は、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

ソロ線豫選

八月十一、十二日開催

参加十チーム

【本報記者】ソロ線豫選は、去る五月廿七日、八月十一、十二日に開催される。参加チームは十チームである。これは、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

送ましくも奏でる

土の戦士大進軍譜

開く農村青年協議會

【本報記者】土の戦士大進軍譜は、去る五月廿七日、農村青年協議會が開かれた。これは、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

海の拾ひ物

伯國軍艦が落した錨

【本報記者】伯國軍艦が、去る五月廿七日、海の拾ひ物として、錨を落した。これは、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

偽物出現

各地を騙る

【本報記者】偽物が、去る五月廿七日、各地を騙る。これは、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

青年急募

前線に赴く

【本報記者】青年が、去る五月廿七日、前線に赴く。これは、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

賣家

日本病院に

【本報記者】賣家が、去る五月廿七日、日本病院に。これは、先月、本報記者の取材で、真相が明らかになり、犯人が捕らへられた。

東



斷乎推獎！

鳳麟

Zapparoli & Serena Ltda.
Rua do Carmo, 161 - S. Paulo
Endereço Tel. "ZAPPA"

結晶硫酸銅

純粋度 99,5% - 99,8%

日本製 白色砒素

極く安くて卸賣致します

御照會は上記へ



魚問屋スミキ

SANRYO SUZUKI
Banca 7 - Mercado de Petre - Santos



ELECTRA

UNICO DEPOSITARIO
CASA CASTRO
Rua 15 de Novembro - Lido Anchieta



梅毒妙藥

Exlixir Nogueira
Grande Depurativo
de Sangue

青年急募

前線に赴く

賣家

日本病院に

賣家

日本病院に

賣家

日本病院に

賣家

日本病院に

T. SASAOKA

C. Postal 1133 S. Paulo

市場中央

市場二十五番

市場中央

市場二十五番



一九四〇年度 對英輸出高 牛肉類が第一位

農林省農産課長から発表された一九四〇年度の對英輸出高は、牛肉類が第一位で、輸出額は、前年度に比し、約二割増の約一億七千九百萬ドルに達した。牛肉類は、前年度に比し、約一割増の約一億七千九百萬ドルに達した。牛肉類は、前年度に比し、約一割増の約一億七千九百萬ドルに達した。

一九四〇年度の對英輸出高は、牛肉類が第一位で、輸出額は、前年度に比し、約二割増の約一億七千九百萬ドルに達した。牛肉類は、前年度に比し、約一割増の約一億七千九百萬ドルに達した。牛肉類は、前年度に比し、約一割増の約一億七千九百萬ドルに達した。

早越に傷められた オイチシカ工業 支那桐の栽培も旺盛

オイチシカは、支那桐の栽培も旺盛で、早越に傷められた。オイチシカは、支那桐の栽培も旺盛で、早越に傷められた。オイチシカは、支那桐の栽培も旺盛で、早越に傷められた。

オイチシカは、支那桐の栽培も旺盛で、早越に傷められた。オイチシカは、支那桐の栽培も旺盛で、早越に傷められた。オイチシカは、支那桐の栽培も旺盛で、早越に傷められた。



第二章 ショウメイオカバヤシ作 古野菊生

第二節 ショウメイオカバヤシ作 古野菊生

古野菊生は、ショウメイオカバヤシ作の第一人者として知られている。古野菊生は、ショウメイオカバヤシ作の第一人者として知られている。古野菊生は、ショウメイオカバヤシ作の第一人者として知られている。

職業分野の變遷

職業分野の變遷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。職業分野の變遷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。職業分野の變遷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

職業分野の變遷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。職業分野の變遷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。職業分野の變遷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

滿洲國の工業生産

滿洲國の工業生産は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。滿洲國の工業生産は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。滿洲國の工業生産は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

滿洲國の工業生産は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。滿洲國の工業生産は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。滿洲國の工業生産は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

歯科

歯科の発展は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。歯科の発展は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。歯科の発展は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

歯科の発展は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。歯科の発展は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。歯科の発展は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

ベルナムブコのマノ輸出高

ベルナムブコのマノ輸出高は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。ベルナムブコのマノ輸出高は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。ベルナムブコのマノ輸出高は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

ベルナムブコのマノ輸出高は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。ベルナムブコのマノ輸出高は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。ベルナムブコのマノ輸出高は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

米國製品大量入荷

米國製品大量入荷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。米國製品大量入荷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。米國製品大量入荷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

米國製品大量入荷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。米國製品大量入荷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。米國製品大量入荷は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

革新的の怒濤

革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。



革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。革新的の怒濤は、戦時体制の進展に伴って顕著な傾向を示している。

CASA HAMAOKA

各種肥料及種子、農薬品

一般の御照會は濱岡へ

アルセニアツト

デ・シユンボ

濱岡肥料店

小賣部：小賣部：小賣部

サンパウロ女學院

洋裁部

英語部

新瀉旅館

電話 2-698

GIZ BRASIL

Escriptorio: Rua de Quitania, 78

5.º and. Tel. 2-2639 C. P. 3223

外國製に優る國産白墨

學校、撞球場、洋服店

で歡迎されて居ります

東山銀行

CASA TOZAN, LIMITADA

São Paulo Rua Florencio de Abreu, 308 - 314 - 318 - 322

Santos Rua do Comercio, 98 - C. Postal, 911 - Tel. 2106

Rio de Janeiro Rua São Pedro, 63 - C. Postal, 3342 - Tel. 23-4031

Lins Av. Voluntario Rosalino Silva, 147 - C. Postal, 11

Marilia Rua 9 de Julho, 1277 - C. Postal, 74 - Fone, 460

P. Prudente Rua Tenente Nicolau Maffei, 302 - C. Postal, 17

Promissão Rua Julio Prestes, 1057 - C. Postal, 16 - Fone, 50

Guarantan Estação Guarantan - N. O. B.

Alv. Machado Estação Alvares Machado - E. F. S.

池田純太郎

大仁田友則

御挨拶

各位益々御清静の段奉賀候

今般私共サンパウロ産業持分組合所有の

骨粉工場を譲り渡す六月一日より開業

致す運びと相成り居り候、就きましては

絶対確實なる品物を以て必ず皆々様御期

待に添ふ様心掛け居りますれば何卒従前

同様御引立賜らん事を伏して願上候

尚今回は特に千俵だけ原價にて販賣

致すべく候

昭和十六年五月三十日

Dr. H. FENICIO

Av. S. João, 536-6 and. - Tel. 4-1188

淋病

如何なる淋病

も五日で完全

治療

北米式

注射法

廉價

（洗滌注射

を用ひず）

大坂商會社

指定切符所

ホテル平和

サンパウロ市アラカス街二二五番

電話七九七五番

齒科 古澤

ピネイロス街カルダスアル

アルコルポル街二六五九

粉末亞硫酸鉛

生物研究所分析證明済

品質優良・價格至廉

タンボールの印 FTTC

American Agricultural Chemical Co.

New York

Exportador:

Fadex Foreign Trading Corp.

New York

東山銀行

CASA BANCARIA TOZAN, LIMITADA

伯貨定期預金 年六分

S. PAULO - SANTOS - LINS - MARILIA - P. PRUDENTE

O Japão continua integrado na aliança tríplice

Catégoricas declarações do ministro Matsuoka - Desmentidas as notícias falsas estampadas em jornais norte-americanos A "marcha para o sul"

TOKYO, 31 (D.) — Em vista dos jornais norte-americanos terem publicado notícias, segundo as quais a atitude do Japão estaria se estriando para com os países do "eixo", o ministro Matsuoka fez ontem as seguintes declarações, reafirmando a firmeza do Império em relação à aliança tríplice:

"Consta que há jornais norte-americanos nos quais se vêm frequentemente notícias sobre um provável afastamento do Japão do pacto tripartite. Mas quanto ao fato da aliança tríplice

constituir o alicerce da política externa do Império, não sofreu nenhuma alteração. Não acredito que os círculos oficiais responsáveis dos Estados Unidos estejam enganados a esse respeito. Se, acaso, eles acreditarem nos boatos infundados isto significaria simplesmente um erro grave. Se na imprensa aparecem telegramas dando notícias falsas, não posso pensar senão que eles estão sendo fornecidos por fontes tendenciosas. Creio que não é inútil esclarecer bem este assunto. E por is-

so vou esclarecer os seguintes pontos:

1.º — A nossa política fundamental e a nossa política externa já estão traçadas. Elas não foram modificadas até hoje.

2.º — Conforme o primeiro ministro Konoye e eu declaramos repetidas vezes, a política externa do Japão orienta-se, desde 27 de Setembro do ano passado, de acordo com o tratado nipoteu-italiano. A atitude atual do Japão também comprova este fato. E ainda hoje ela não sofreu nenhuma

modificação.

3.º — Consequentemente não é possível que o Japão evite cumprir suas obrigações perante o pacto tripartite.

4.º — Quanto à falada política de marcha para o sul, também acontece o mesmo. Como foi declarado várias vezes, o nosso propósito é pacifista. Nem pode haver dúvida. Entretanto, caso a situação internacional não nos permita a realização da política pacifista aí então será possível pensar-se de outra maneira".

O estado de emergência limitado nos Estados Unidos

O ministro do Interior será o "ditador" da industria petrolifera — O racionamento do petróleo no leste

HYDE PARK, Estados Unidos, 31 (U. P.) — O presidente Roosevelt começou a dar os necessários retoques no programa do estado de emergência limitada, estabelecendo o ministro do Interior, sr. Harold Ickes, como "ditador" da indústria petrolifera norte-americana, que emprega um capital de 10 milhões de dólares. O sr. Ickes foi designado coordenador da produção petrolifera para a defesa nacional e deverá cuidar que os abastecimentos desse produto e seus derivados se acomodem às necessidades do país e sua defesa.

Essa medida foi adotada em seguida a uma carta do sr. Roosevelt ao presidente da Câmara dos Representantes, sr. Rayburn, na qual se advertia que "há muitas probabilidades de que dentro de poucos meses se estabeleça o racionamento de petróleo no este".

Recentemente, o próprio senhor Ickes expressou que, talvez, muito breve, seja uma realidade nos Estados Unidos o estabelecimento dos "domingos sem gasolina". Durante uma conferência de imprensa, na quinta-feira última, o sr. Harold Ickes declarou que abordecia a prioridade pelo governo no petróleo e gasolina, se necessário fosse, dando a entender que se estavam estudando medidas para conservar as existências desses produtos.

As estatísticas federais sobre refinado, mas sim pela escassez de meios de transporte dos abastecimentos aos principais centros de consumo.

Continuam os distúrbios na Índia

TOKYO, 31 (T. O.) — A medida da concretização do aniquilamento do poder inglês no leste do Mediterrâneo vai crescendo com o movimento antibrítico das Índias, segundo constata o jornal "Hochi", desta capital, de acordo com informes fidedignos, acrescentando

que especialmente na cidade de Bombaim, sucedem-se, em número crescente, as demonstrações públicas contra a Inglaterra. Choques sangrentos entre forças policiais e militares britânicos e manifestantes, principalmente nos bairros comerciais, estão na ordem do dia.

Cessou toda a resistencia irakiana!

Irak teria solicitado armistício à Grã-Bretanha — Raschid Ali fugiu de Bagdá — Bagdá foi declarada cidade aberta

LONDRES, 31 (U. P.) — Urgente. — Informa-se, autorizadamente, que o Irak solicitou um armistício à Grã-Bretanha.

LONDRES, 31 (U. P.) — Urgente. — Anuncia-se, nesta capital, que cessou toda a resistência irakeana.

TEHERAN, 31 (U. P.) — Urgente. — O chefe do governo irakeano, Raschid Ali, acompanhado de Sharif Sharag, do "emir" Zaki e de alguns oficiais, chegou ontem à fronteira com o Irak.

BEIRUT, 31 (U. P.) — Urgente. — Informa-se que Bagdad foi declarada cidade aberta e que se está travando uma encarniçada luta em seus arredores.

A morte do general Freyberg, na Creta

Diz-se em Londres que não ha informações acerca de sua morte

LONDRES, 30 (U. P.) — O major-general Bernard C. Freyberg, cuja morte anunciou um despacho procedente de Damasco, baseado na rádio do Cairo, era um dos mais distinguidos heróis de guerra do império britânico.

Segundo a informação, Freyberg encontrou a morte num desastre de aviação, quando voava de Creta para Alexandria. Presume-se que, se tal notícia é verdadeira, ia conferenciar, com urgência, no Egito, com o Estado-Maior inglês, a respeito da crítica situação na ilha de Creta.

O major-general Freyberg havia sido nomeado comandante-chefe das forças expedicionárias neo-zelandesas e tinha a seu cargo a defesa em Creta, iniciada

em 20 de Maio, quando começou a invasão nazista. Durante 10 dias e 10 noites sem descanso, Freyberg opôs uma tenaz resistência às audaciosas tentativas nazistas; todavia, viu-se obrigado a ceder terreno paulatinamente por seus limitados recursos diante da esmagadora superioridade do inimigo.

O major-general Freyberg contava, atualmente, 51 anos de idade, e havia sido condecorado com a "Vitória Cross" da ordem por seus distinguidos serviços além de possuir numerosas outras condecorações.

LONDRES, 30 (U. P.) — Nas esferas autorizadas manifestou-se que não se tinha informações acerca da suposta morte do general Freyberg, em Creta.

Bombardeio de grandes proporções realizados pela aviação imperial

Comunicado do grande Quartel General

TOKYO, 31 (D.) — Segundo informa a seção de informações do Departamento da Marinha do Grande Quartel General, a esquadra naval do Japão

realizou bombardeios de grandes proporções em várias regiões chinesas causando enormes danos aos inimigos.

UM NOVO ESPETACULO de Dunkerque será apresentado pelas tropas inglesas na ilha de Creta

Periga o canal de Suez — Vista geral da situação do Mediterraneo Oriental — Prestes a terminar a luta na ilha

BERLIM, 30 (D.) — Segundo notícias chegadas a esta capital na noite de hoje, a última base inglesa situada no litoral norte de Creta caiu sob o poder das forças germânicas. Nessa nova derrota os ingleses deixaram cerca de 800 prisioneiros.

Ao mesmo tempo, vários milhares de soldados italianos que estavam cercados pelas tropas gregas na frente da Albania foram libertados pelas forças amigas. As forças alemãs em ação nas regiões da Canea, limpando os restantes das forças inimigas, a despeito do insuportável calor, marcham rapidamente para as regiões de Sfakia. Da ilha de Dodecaneso realizaram um desembarque de surpresa na frente inimiga do litoral oriental de Creta.

As forças italianas, acompanhando esse avanço, estão se aproximando dos inimigos instalados no sul da ilha. Dar-se-á, por estes dias o novo espetáculo de Dunkerque na ilha de Creta.

E' importante notar-se que no sul de Creta, executando o porto de Hierapetra, não há outra saída em massa de tropas inglesas, pois, essas regiões são

todas formadas de montanhas íngremes.

A esquadra britânica Oriental que deveria auxiliar as tropas inglesas não o pode fazer ante a ação decisiva da aviação alemã, achando-se cercada nas águas situadas entre Alexandria, Haifa e Chipre. Caindo a ilha de Creta sob o domínio das forças germânicas, todas as vantagens que os ingleses possuíam nas bases do Mediterraneo Oriental vêm para as mãos dos alemães. Assim, as forças do ar e mar do "eixo" estabelecer-se-ão na ilha de Creta, encurtando enormemente as distâncias, pois a distância até a Líbia será de 300 kms. e até a Alexandria e Asia Menor, respectivamente 100 e 150 kms. Nessas condições é das mais críticas a situação do canal de Suez.

As forças greco-britânicas tomam posições defensivas

As hostilidades terminarão hoje ou amanhã

BERLIM, 31 (U. P.) — Alguns comentaristas desta capital opinam ser muito possível que a terminação das hostilidades, em Creta, seja anunciada hoje ou esta noite.

Em geral, acredita-se que o comunicado final a respeito seja dado à publicidade dentro de breves dias.

Operações de limpeza

BERLIM, 31 (U. P.) — De acordo com as mais recentes in-

formações recebidas, as forças alemãs estão realizando operações de "limpeza" na região meridional de Creta e se aproximam do porto de Sfakia que possivelmente já foi ocupado.

Segundo ainda esses informes, o último porto de algum valor, que ainda se acha em poder dos britânicos, é o de Hierapetra, porem não tem importância nem sequer como porto de evacuação, porquanto tem numerosos bancos de areia e suas águas são apenas navegáveis por pequenas embarcações.

Audacioso roubo em Shanghai

SHANGHAI, 31 (D.) — Hoje cedo, dois automóveis do correio de Shanghai, quando iam partir carregando cerca de 500.000 dólares que haviam chegado de HongKong, receberam ordem de quatro indivíduos vindos em um auto cinzento, para passar a carga a este último. Os funcionários do correio obedeceram e o carro desapareceu na direção da Broadway. Desconfiados, os funcionários avisaram ao chefe da tesouraria dos correios e descobriu-se então que se tratava de um audacioso roubo. A polícia está no encalço dos gaunhos.

O auxilio americano às democracias no mês de Abril

WASHINGTON, 31 (T. O.) — A estatística sobre as exportações de material de guerra, divulgada ontem pelo Departamento do Estado, proporciona as cifras exatas do volume de material bélico exportado pelos Estados Unidos para a Inglaterra no mês de Abril, ou seja durante o primeiro mês após entrada em vigor o projeto "Lend-Lease", de auxilio às democracias. De acordo com os respectivos dados foram fornecidos à Inglaterra, durante o mês de Abril último, materiais de guer-

Prorrogado o tratado comercial teuto-mandchú

Deu-se ontem a sua assinatura oficial

HSINGKING, 31 (D.) — As conversações para a renovação do tratado comercial teuto-mandchú assinado no dia 14 de Setembro de 1938, foram coroadas de pleno êxito. Essas conversações terminaram no dia 26 e hoje foi realizada uma sessão conjunta, presentes os representantes dos países interessados, onde foi oficialmente assinado o novo acordo que prorroga o referido tratado, tendo sido publicado no mesmo dia o seguinte comunicado oficial:

"O tratado comercial assinado entre o Mandchukuo e a Alemanha, cujo prazo termina hoje, foi prorrogado pelas recentes negociações realizadas entre os governos mandchú e alemão.

Em sessão solene realizada hoje na residência oficial do pri-

meiro ministro mandchú, presentes o ministro do Exterior do Mandchukuo e o ministro da Alemanha, sr. Wagner, foi assinado oficialmente o tratado que prorroga o tratado teuto-mandchú referente ao comércio exterior e à forma de pagamento".

O ministro Matsuoka no Palacio

TOKYO, 31 (D.) — O sr. Matsuoka, ministro das Relações Exteriores, esteve hoje às 13.30 horas, no Palacio Imperial, onde foi recebido em audiência por S. M. o Imperador. O titular do Exte-

rior relatou à S. M. as questões subordinadas ao seu ministério e respondeu a muitas perguntas de S. M.

Navios japoneses transportarão mercadorias das Filipinas aos Estados Unidos

MANILHA, 31 (D.) — Desde os fins do ano passado, os exportadores combinados com as companhias de seguros e bancos estavam exercendo pressão sobre as companhias de navegação japonesas com referência ao transporte de mercadorias das ilhas Filipinas para os Estados Unidos. Entretanto, devido à grande falta de navios, os interessados estão, ultimamente, solicitando o concurso dos navios japoneses. Os poderes norte-americanos já autorizaram essa medida, segundo a qual, 125 mil toneladas de cargas serão destinadas aos navios japoneses.

O novo ministro do Exterior do governo de Chungking em Hong-Kong

HONG-KONG, 31 (D.) — O novo ministro do Exterior de Chungking, Kuo Tai-chi, que em Londres trabalhou intensamente pelo fornecimento do auxilio americano à China, chegou hoje, a bordo de um "Clipper" a esta cidade. Após uma breve permanência em Hong Kong dirigir-se-á para Chungking.

ra no valor total de 55 milhões e 726.000 dólares. No mesmo período foram exportados para a China materiais no valor de 180.000 dólares e para a Grécia cerca de 4 milhões de dólares.

O CONTROLE DE CAMBIOS NA AMERICA LATINA

Estudo realizado pelo Departamento de Comércio dos Estados Unidos

WASHINGTON, 31 (U. P.) — O Departamento de Comércio divulgou um estudo sobre as alternativas do controle de câmbios, na América Latina, no período compreendido entre o mês de Outubro de 1940 e a data atual.

Na seção dedicada ao sistema de controle brasileiro — escrita, evidentemente, antes da presente revisão do sistema de quotas para o café — diz a análise do Departamento do Comércio que durante os últimos meses tem havido cambio disponível no Brasil, em quantidade suficiente para fazer frente a todas as exigências comerciais sem dilatação.

Expressa que agora, todavia, surge certa incerteza com o anúncio feito em Abril, de que não seriam aprovadas novas vendas de café, para ser embarcado destinado aos Estados Unidos, durante os seis meses restantes do ano de quotas. Isto significará uma diminuição considerável de câmbio, proveniente

das vendas de café, porém espera-se que ela seja compensada, pelo menos em parte, com o produto das vendas de algodão e outros artigos de menor importância, cujos preços foram elevados por motivo da guerra.

Essa análise do Departamento do Comércio termina com a seguinte observação:

“Se bem a situação exija que se siga cuidadosamente, não há indícios de que se produzam dificuldades no câmbio, no próximo futuro”.

Na Colômbia — prossegue o estudo — as mercadorias se classificam em quatro grupos aos efeitos da aplicação do controle de câmbios. E em seguida acrescenta:

“Não há indicações de que o cambio não continue sendo provido com demora, exceto para os produtos do grupo n. 1. No caso dos três grupos restantes, a demora foi consideravelmente reduzida durante o último ano, porém não existe nenhuma segurança de que essa tendência

prossiga. Os exportadores norte-americanos devem observar esse período de demora para determinar sua política, de acordo com suas evoluções.

Diz ainda o referido estudo do Departamento de Comércio, que no Perú, não se implantou formalmente o controle de câmbios, “mas nas épocas em que o câmbio é escasso e sem demoras as remessas, estabeleceu-se um ajuste cooperativo entre os bancos comerciais e o Banco Central de Reserva. Nos últimos meses não se produziram demoras, quando se tratava de somas correntes”.

Autarquia

Os acionistas da São Paulo Railway tiveram há dias, em Londres, a sua reunião. De passagem notemos o fato como índice do temperamento britânico, a prosseguir calmamente na faina dos negócios, por entre o espoucar aterrador de bombas arrazadoras.

Mr. Bury, presidente da assembleia, teve considerações interessantes em torno da realidade e tendências econômicas do Brasil equadrado no reflexo da guerra que convulsiona o mundo. Sempre é apreciável saber como lá fora observam as coisas do Brasil, sobretudo nesta hora em que a presença política das nações no cenário universal se faz sentir impressivamente pela função econômica.

Ora, Mr. Bury observa penetrantemente que o Brasil manifesta tendência acentuada para incrementar autarquia, mercê da perda de mercados causada pela guerra. A base do seu aserto o financista inglês a encontra nos reflexos sentidos pelas operações da São Paulo Railway. Estas dependem cada vez mais do intercâmbio comercial interno de mercadorias, e cada vez menos de exportações e importações externas. Exemplificando e comprovando Mr. Bury frisou que o transporte da Estrada baixou o tráfego de café, algodão, açúcar e materiais de construção, ao passo que subiu o de mercadorias em geral, carne e sal.

E' convincente e animadora a observação de Mr. Bury. As operações da São Paulo Railway refletem com sensibilidade termométrica as tendências econômicas do Brasil, porquanto essa Estrada é o escoadouro e a garganta da região brasileira mais vultosa e mais variadamente produtiva ao mesmo tempo que mais pujante na capacidade aquisitiva.

Sem querer alegrar-nos com a desgraça que traumatiza tantos povos, sempre nos satisfaremos ao sentir que o Brasil procura colher dessa catástrofe resultados a lhe constituirem mais uma lição que um proveito egoístico. A autarquia econômica não será, por certo, uma realidade integral para povos jovens, em fase de tantas possibilidades a desenvolver. E' o caso do Brasil. Mas importa-nos sempre tudo fazer por bastar-nos a nós mesmos, no aproveitamento nacional de reservas e capacidades. Consequência desse continuo e bem dirigido esforço vital, será o crescimento de nossa produção quantitativa e específica, a coincidir com o aumento de nossa capacidade aquisitiva. Aliás, as estatísticas

recentemente publicadas, relativas ao comércio interno do Brasil, denotam um intercâmbio interior de números em progresso continua, a confirmarem plenamente as observações que Mr. Bury deduz, em Londres, das operações da São Paulo Railway. Folgamos em registrar esse fato como prova de que os brasileiros da hora atual se manifestam à altura das eventualidades, sabendo portar-se nelas como convém aos seus interesses e aos imperativos da realidade nacional.

Descoberta de produtos farmacêuticos fraudados pelos laboratórios

RIO, 30 — O chefe do Serviço de Bioquímica do Hospital Central do Exército, farmacêutico Geraldo Magela Bijos, falando à imprensa, sobre certos produtos farmacêuticos, entregues ao consumo e fraudados pelo próprio fabricante, teve ocasião de citar os resultados a que chegou com o estudo comparativo de métodos e processos analíticos, em produtos comerciais à base de vitamina C.

De acordo com o que s. s. disse, embora sem caráter oficial, encontrou, em mais de 20 daquelas especialidades, apenas quatro em condições de agir eficientemente no organismo humano. As demais apresentavam tais diferenças de teor de vitamina C,

que foram prontamente recusadas.

Em 22 especialidades, o teor por 100, encontrado, foi, segundo o sr. Magela: “menos 10”, em quatro especialidades: “menos 30-40” em duas; “menos 40-50” em três até a chegar a menos “menos 65-80”, em três especialidades e isto em preparados quer estrangeiros, quer nos de produção nacionalizada, e nos de fabricação nacional.

Noticia-se, também, que esses produtos fraudados iam ser fornecidos ao Exército, por meio de concorrência, o que só não ocorreu, em virtude do surpreendente resultado dos exames procedidos no Serviço de Bioquímica do Hospital Central do Exército.

As conversações econômicas entre o Japão e Índias Neerlandesas

Declarações do sr. Yoshizawa BATAVIA, 30 (D.) — A resposta das Índias Neerlandesas à proposta japonesa, sobre as negociações comerciais entre os dois países será dada nos primeiros dias de Junho próximo. A propósito da protelação da resposta neerlandesa, o sr. Yoshizawa, chefe da delegação japonesa declarou o seguinte:

“Eu já transmiti, a decisão do Japão sobre esta questão, ao sr. Van Mook, no dia 7 de Maio. Na conferên-

Impedem a saída das mulheres australianas

SHANGHAI, 30 (T. O.) — Notícias de Camberra informam que foi proibido a todas as mulheres australianas de 16 até 50 anos de idade, efetuarem viagens ao estrangeiro, a não ser quando se trate de razões políticas. Esta disposição visa manter no país o maior número possível de mulheres para serviços de guerra.

Notavel o sucesso alcançado pela "Exposição Industrial" do Brasil em Montevideu

Relação dos Principais Produtos Expostos

RIO, 30 — Reprêso de avião de Montevideu, o sr. Abel Ribeiro Filho, chefe de gabinete do ministro do Trabalho, que esteve colaborando na organização da Exposição Industrial do Brasil, inaugurada no dia 22 deste

mês, na capital uruguaia, por iniciativa do Ministério do Trabalho.

Falando hoje à imprensa, s. s. declarou:

— Nos três primeiros dias a frequência à Exposição foi de

cerca de 30 mil pessoas diariamente. Nos dias subsequentes vem sendo mantida a média de 15 a 20 mil pessoas.

Deve-se certamente, ao embaixador Batista Luzardo esse interesse e simpatia pelas coisas do Brasil, que se observa no Uruguaia a inauguração da Exposição coincidiu com outras cerimônias de interesse brasileiro, tais como a inauguração do Palácio Brasil e o lançamento da pedra fundamental do monumento a Mauá.

Na Exposição, figuram, entre outros, os seguintes produtos brasileiros: tecidos, madeiras, café, mate, açúcar, ferro, papel, cristais, louças e cerâmicas. A Exposição será encerrada no próximo dia 15 de Junho.

O engenheiro Abel Ribeiro Filho já assumiu hoje, suas funções no gabinete do ministro do Trabalho.

Irrompeu incêndio num dos armazens do cais do Rio

Ação dos bombeiros com mascara contra gases - Os prejuizos

RIO, 30 — A tarde, no armazém 3 do cais do porto, irrompeu incêndio em um amontado de produtos químicos, acondicionados em recipientes de vidro, tambores e barricas, ali depositado. Os bombeiros, sollicitados, foram obrigados a dar combate ao fogo usando máscara contra gases, pois a fumaça que se desprendia era intensa e sufocante.

Após uma hora de trabalho, o incêndio foi dominado. Acredita-se que os prejuizos sejam elevados.

A mercadoria destruída pelo incêndio estava consignada à firma “Mormack” e constituía 448 tambores de isopossulito de sódio. Julga-se que a combustão desse material foi espontânea. Um dos carros do corpo de bombeiros, quando regressava do local do sinistro, atropelou e matou um homem de cor preta, desconhecendo-se até agora a sua identidade. Também várias bobinas de papel para imprensa foram atingidas pelo fogo, no

local onde se achava armazenado aquele material inflamável.

Violento Temporal Desabou na costa sul do Brasil

Em perigo vários navios brasileiros e argentinos

RIO, 30 — Desde a tarde de ontem circularam insistentes notícias nesta Capital, sobre o violento temporal irrompido nas costas do sul do Brasil e da República do Uruguaia, pondo em perigo vários navios nacionais e argentinos, que navegavam nas referidas zonas, dando-se como na iminência de estar naufragando o “Potengi”, da Companhia de Comércio e Navegação.

ACIDENTES A BORDO DO "HENRIQUE DIAS"

O “Farrapos”, do Lloyd Brasileiro, também foi envolvido pela forte tormenta, quando navegava com destino ao Rio Grande, sendo colhido na barra do referido porto.

Informações que colhemos na diretoria do Lloyd, hoje, pela manhã, adiantam que o aludido navio já conseguiu entrar no porto que demandava, estando, portanto, fora de qualquer perigo.

Comanda o “Farrapo” o sr. Genesio Rosas, um dos mais hábeis e competentes oficiais da nossa marinha mercante.

Quando atingia a costa da República do Uruguaia, na altura de Maldonado, o navio frigorífico “Henrique Dias”, do Lloyd Brasileiro viu-se atingido pelo temporal. O seu comandante, Carlos de Carvalho e Silva, em transmissão para o Lloyd comunicou que, devido à violência da procela, havia vários feridos a bordo, porém sem gravidade.

O “Henrique Dias”, encontra-se navegando para Montevideu, seu porto de destino.

Detido em Santa Catarina um tripulante do "Graf Von Spee"

CORITIBA, 30 (A. N.) — Notícias procedentes de Laguna, em Santa Catarina, dizem que a Polícia local deteve um indivíduo de nacionalidade alemã. Depois de uma série de diligências, constatou-se que o detido era um marítimo do “Graf von Spee” que fugira da Argentina, onde se encontrava internado, e pretendia alcançar o Rio.

Faleceu o ex-rei do Sião

VIRGINIA WATER, Inglaterra, 31 (U. P.) — O ex-monarca siamês Prajadjipok, rei absoluto do Sião (hoje Tailândia) desde 1925 até 1935, ano em que abdicou, faleceu em sua residência, ontem.

FALECEU COM A IDADE DE 47 ANOS

STOKOLMO, 31 (T. O.) — Hoje pela manhã noticia-se de Londres, que falecera ontem em consequência de ataque cardíaco o ex-rei do Sião Prajadjipok, que vivia exilado no condado de Surrey, na Inglaterra. Por ocasião da revolução de 1935, que terminou com a criação da Tailândia livre, o extinto renunciara ao trono siamês, falecendo com a idade de 47 anos.

No Parque Agrônomo

Terminadas as edificações do «Instituto Nacional de Sericicultura» — Declarações do sr. J. Nogueira de Carvalho

RIO, 30 — O agrônomo J. Nogueira de Carvalho que, em companhia dos srs. Mario de Oliveira, Francisco de Assis Iglesias e Mario Carneiro, integram a comissão de fomento à sericicultura, falando à imprensa a respeito do Instituto Nacional de Sericicultura, do qual s. s. está incumbido de organizar, forneceu os seguintes esclarecimentos.

— “Devido ao patriótico espírito de iniciativa do ministro da Agricultura, a indústria de seda começa a receber melhores atenções.

E' prova de minha afirmativa a construção do Instituto de Sericicultura, cujas edificações estão prontas, no Parque Agrônomo, sito no quilômetro 47 da rodovia Rio-São Paulo. O aludido órgão, se convenientemente aparelhado, será um dos mais notáveis do mundo. Destina-se, como é do conhecimento geral, a comandar a ação do governo, no setor sericícola, e disporá, oportunamente, de dependências, nas regiões climáticas típicas do país, formando-se assim uma rede nacional de experimentação, ensino e fomento da sericicultura no Brasil.

No Instituto, julgo que a parte experimental poderá atender aos estudos de ecologia, genética, patologia e tecnologia, apurando-os cientificamente. O ensino que é importantíssimo, para a formação de técnicos especializados em vários graus, será ministrado em curso superior

REGRESSO DOS EE. UU., DO SR. LUIZ VERGARA

WASHINGTON, 31 (U. P.) — O secretário do presidente Getúlio Vargas, sr. Luiz Vergara partiu, com rumo ao Brasil, indo apresentar suas despedidas ao embaixador brasileiro, sr. Carlos Martins P. de Sousa.

O sr. Vergara que escalou em Miami ainda ontem, continuará sua viagem hoje, esperando chegar ao Rio na próxima terça-feira.

Mensagem intima de Churchill a Roosevelt

NOVA YORK, 31 (U. P.) — O “Daily News” afirma que as informações que o embaixador Winter tráz para o presidente Roosevelt estão “carregadas com dinamite internacional”.

O referido diário expressa que o diplomata norte-americano é portador de importantíssima mensagem íntima de Winston Churchill para Roosevelt.

O "Pai da república chinesa"

NANKIN, 30 (T. O.) — O Conselho Político Central do governo de Nankin conferiu o título de Pai da República Chinesa ao seu fundador, Sun-Ya-tsen. A sua fotografia será afixada em todos os edifícios da administração pública.

AGREDIU O PATRÃO

Uma violenta cena de sangue em Cafelandia - Dois camaradas agrediram a foice e facão os Irmãos Abe

Sempre que chega a época da colheita, acontece numerosos crimes de morte ou ferimentos nas zonas rurais do interior. Em Cafelandia, há dias, dois irmãos japoneses, foram gravemente feridos por camaradas.

O fato se deu do seguinte modo.

No dia 27 de Maio último, às 19 horas, os srs. Chuzabro Abe, de 31 anos de idade e seu irmão Chukichi, de 28 anos, ambos naturais de Hokaido, Japão, foram

agredidos e feridos pelos seus empregados, Luiz Tavares, de 45 anos e seu filho Antonio, de 18. Luiz, além de Antonio, tem mais filhos e trabalhou para a família Abe, durante três meses, na colheita de algodão.

Tendo terminado a colheita, o sr. Abe quis despedi-lo, mas Luiz Tavares não concordou. Na noite de 27, pai e filho procuraram o sr. Chuzabro, o qual saiu para fora de casa com um lampeão na mão, para se entender com

eles. Nisso, Antonio, que trazia uma foice, vibrou um golpe por trás, prostrando-o por terra, com grave ferimento na cabeça. O irmão do sr. Chuzabro, sr. Chukichi, ouviu os gemidos do sr. Chuzabro e saiu para averiguar o que acontecera. Desta vez foi Luiz quem esfaqueou o sr. Chukichi na cabeça. Os dois irmãos, entretanto, de ânimo forte, apesar de feridos, lutaram com os agressores. Entremetidos vários vizinhos surgiram e os criminosos fugiram.

Na mesma noite os Irmãos Abe foram levados para a Sta. Casa de Cafelandia. Consta que os ferimentos do sr. Chuzabro são para um mês e meio de tratamento.

Os criminosos se apresentaram, no dia seguinte, à polícia de Lins, onde foram recolhidos à prisão.

Segundo consta, estes dois indivíduos já tiveram quatro encrencas com seus patrões.

Historia dos "macacos velhos" SUKENARI ONAGA

O homem do cavanhaque (já rapou) Sukenari Onaga, é descendente de "samurai", da família de Tametomo Hachirô Chinzai da provincia de Okinawa. O seu caracter, falando de poucas palavras, é como um javali que não conhece outro rumo a não ser a linha reta. E sendo de um lado exímio fazedor de "Tankas", pode-se dizer que Onaga jamais se desviou do seu espirito de retidão. De fato, Onaga, foi sempre de uma honestidade única, não suportando misturas. Marchou um caminho traçado por ele e só para ele.

Nasceu em 1885, contando atualmente 56 anos. Tendo vivido todo esse tempo segundo o seu caracter especial acima referido, a sua vida passada é bastante accidentada. Terminado o curso de humanidades prestou exames para uma escola superior, sendo aprovado. Certo dia teve desinteligência com um

subalterno do "Tonosama" (fudatário) de Okinawa, ficando, por isso, sem recursos para continuar os estudos. Não havendo outro remédio, transferiu-se para a Escola Superior de Navegação de Tokyo, a custa do governo. Em 1911, diplomou-se pela secção de mecânica dessa escola e tentou ingressar na Companhia de Navegação "Tôyô". Entretanto, como sóe acontecer, por questões sentimentais, foi admitido um seu colega. Indignado com esse fato não quis saber mais de ser marujo. Resolveu aventurar-se pelo mundo afora. Isto quer dizer que Onaga experimentou, já antes de entrar na vida prática, dois fortes desvios.

As companhias de navegação japonesas, nessa época, eram ainda organizações muito fracas. A Osaka Shôsen Kaisha tinha emprego para ele, mas Onaga, não quis trabalhar numa empresa de segunda classe, como o era de fato essa compa-

nhia. Onaga, quando ainda estudante, esteve uma vez no Peru. Essa experiência impeliu-o a uma nova aventura para o continente sul-americano.

No dia 22 de Junho de 1912, embarcou no "Hongkong Maru", um dos navios mais importantes da época e deixou Yokohama. Nas proximidades do Peru a era japonesa foi mudada de Meiji para Taishô, pelo falecimento do grande imperador Meiji. Chegou em Lima, capital do Peru, no dia 31 de Julho do ano primeiro de Taishô (1912). A vida aventureira de Onaga começa aqui. O seu espirito simples em contacto com a natureza do vasto continente, encheu-se de poesia. Todo moço tem ilusões, mas, em geral, desfeita a ilusão, não se arrepende. Essa ilusão, entretanto, tem sempre um quê de inspiração divina que abre o caminho do bem ou do mal para o moço principiante.

(Continua)

Violenta ofensiva de onda de frio Neve no Paraná e Rio G. do Sul No interior do Estado

CORITIBA, 30 (A. N.) — A temperatura baixou consideravelmente nesta capital, marcando o termômetro, na noite de ontem, dois graus abaixo de zero. Soprou um vento fortíssimo, seguido de geada.

Notícias recebidas do interior afirmam que caiu neve em Guaraçuva. Em Palma também há neve.

INTENSO FRIO NO RIO GRANDE

PORTO ALEGRE, 30 — A temperatura continua decrescendo em todo o Estado. Nos municípios de Bento Gonçalves, Garibaldi e São Francisco de Paula, tem caído neve, a qual atinge, neste último, cerca de 50 centímetros. Nos dois primei-

ros já se formaram camadas de 30 centímetros.

EM S. PAULO

A temperatura mínima desta madrugada, na Capital, foi de 6 graus e 6 décimos, de acordo com informações do Instituto Geológico e Geofísico do Estado, no dia 30.

Luta de longa duração (Fatos diversos)

DOORN, 29 (U. P.) — Causa grande ansiedade o estado de saúde do ex-kaiser Guilherme II, que peorou nos últimos meses, durante os quais não pôde abandonar sua habitação.

WASHINGTON, 28 (U. P.) — Sobre-se que as autoridades norte-americanas estão, no momento, estudando a conveniência de iniciar, brevemente, em todo o país, uma grande campanha para que o povo contribua com velhos utensílios, panelas e demais complementos de cozinha, de alumínio, afim de serem utilizados na produção de munições.

A campanha preliminar terá início na próxima sexta-feira nos Estados de Virginia e Wisconsin, com caracter de ensaio.

O N. C. Miwa, de Pompéia, na Alta Paulista, não passa de uma pequena colônia de 25 famílias apenas. Mas a união que ali existe entre os moços e os chefes de família é realmente admirável. Quando um chefe de família adoce, os jovens se mobilizam para ajudar a família no trabalho agrícola.

Realizou-se dia 25 de Maio, em Bastos, a primeira grande competição feminina de esportes. Participaram mais de 300 representantes do belo sexo.

A Escola de Corte e Costura "Shin-ai" desta capital, vai realizar amanhã, a festa da formatura da 6.ª turma de diplomadas do estabelecimento. Das 26 diplomadas, quatro são senhoritas de distintas famílias brasileiras. Elas aprenderam a arte do Ikebana e das flores artificiais. Falam também o japonês.

Anuncios eficientes?
Só no "BRASIL ASAH I", jornal de maior circulação na Colônia Nipônica
Tel. 7-3326

Ajudemos as vitimas das enchentes do Rio Grande do Sul 47:500\$000 o total dos donativos já oferecidos pela Col. Japonesa

A colônia japonesa está apolando, com entusiasmo, a iniciativa dos seus quatro jornais. Assim é que continuam chegando mais donativos às vitimas das enchentes do Rio Grande do Sul, de todos os cantos da colônia. No dia 30 último o Consulado Geral do Japão publicou mais a lista (a segunda da série) dos donativos, num total de 15:500\$000, que somados aos

da primeira lista perfazem o total geral de 47:500\$000.

Da segunda lista, 10:800\$000, foram oferecidos pelos japoneses do Rio e 3:160\$000, de São Paulo e o restante de outras localidades.

Realizou-se dia 25 de Maio, em Bastos, a primeira grande competição feminina de esportes. Participaram mais de 300 representantes do belo sexo.

Foi pescada uma ancora pertencente á marinha brasileira

RIO, 29 — O vapor "Mormacsea", da "Frota da Boa Vizinhança", que há dias chegou a esta capital, ao ancorar para receber a visita da Polícia Marítima, pescou uma âncora, que se achava submersa, no local em que habitualmente fundeiam os navios estrangeiros para preencher aquela formalidade.

Não conseguindo suspender a âncora pescada, o "Mormacsea" arrastou-a até o cáis, amarrando suas correntes a um dos "cabeções" do dique.

SERIA DO "URUGUAI"?

Três navios da "Frota da Boa Vizinhança" já perderam suas âncoras na Guanabara. Entre eles o "Uruguai". Assim, julgando que se tratasse de uma delas, a companhia de navegação Moore Mac Cormack reivindicou a posse da que acabava de ser encontrada.

A Administração do Porto tomou providências para que fosse içado o precioso achado. Inicialmente empregou-se um guindaste com capacidade para 5.000 quilos. Não sendo suficiente, adicionou-se-lhe a força de um outro, de 3.000. Mesmo assim não se pôde retirar a âncora.

Recorreu-se, então, ao "Marechal de Ferro", que tem a capacidade de 100.000 quilos. Somente assim se conseguiu realizar aquele trabalho.

VALE 20 CONTOS E PERTENCE A MARINHA BRASILEIRA

A âncora, segundo se comprovou, não é de propriedade da Moore Mac Cormack. Pertence a uma belonave da marinha de guerra brasileira. Assim sendo,

foi encaminhada ao Ministério da Marinha.

A peça em questão é feita de metais de alto teor de resistência — aço e cobre — e de grande valor. Acredita-se que seu preço monte em mais de vinte contos de réis.

Falso Padre de Poá
A Delegacia de Vadiagem procura esclarecer o caso

O padre Eustáquio, mais conhecido como sendo o padre de Poá, está de viagem para algumas cidades do interior.

Indivíduos sem escrúpulos, porém, aproveitando-se do nome desse sacerdote, andam explorando a boa fé de diversas pessoas.

Assim, no dia 23 do corrente, no município de Piedade, o colono Carmelino Vieira Martins recebeu a visita de um indivíduo, que se apresentou como sendo o padre de Poá.

O sitante pediu-lhe então que operasse a cura de uma pessoa de sua família. Depois de benzer o doente, o falso padre disse que a cura se manifestaria daí a momentos. Nesse interim, pediu que dessem alguma coisa aos pobres.

O colono deu-lhe o dinheiro que possuía na ocasião, perto de 800\$000, com que o malandro desapareceu imediatamente.

Mais tarde, Carmelino, sabendo que o verdadeiro sacerdote estava em Alaguari, verificou que fora vítima de um embusteiro.

A queixa que foi apresentada

Vendas de flores durante a competição de "sumô"

Várias jovens da colônia japonesa de Araçatuba venderam flores artificiais feitas pela sra. Hirai, sua filha e senhorita Shirai, durante a competição de "sumô" realizada dia 25 de Maio em Araçatuba.

Todos compraram as flores oferecidas pelas "flores da competição". As vendedoras angariaram cerca de 300 mil réis, com essa venda.

(Fotografia na pág. jap.)

Em missão de intercambio cultural acha-se no Rio de Janeiro a sra. Marinobel Smith Declarações à Imprensa

RIO, 29 — A sra. Marinobel Smith, que percorre a América em missão cultural, sob os auspícios do governo norte-americano e da "International Business Machines Corporation", grande organização presidida pelo milionário mr. Thomas Watson, encontra-se atualmente, nesta Capital.

A sra. Smith, que é perita em belas artes, visando aumentar o intercâmbio artístico e cultural nas Américas, declarou o seguinte, falando aos jornalistas, a respeito dos planos de mr. Watson:

"A exposição que o público carioca verá em Junho, no Museu Nacional de Belas Artes, é apenas uma parte do plano magnífico de intercâmbio artístico e cultural que mr. Thomas Watson elaborou para imediata execução. Estou em viagem por todos os países da América, a começar pelo Brasil, para investigar as condições de vida artística sul e centro americanas. A presente exposição é a terceira organizada pelo sr. Watson. A primeira, na Feira de Nova York reuniu quadros de artistas de todo o mundo. A segunda foi uma amostra de artistas americanos do norte. A terceira, que será aberta aqui, reúne artistas de toda a América.

Os catálogos dessa última exposição mostram também alguma coisa da história de cada um dos países representados. Os quadros foram escolhidos dentro dos motivos típicos de cada ter-

ra. O caracter de cada povo será assim revelado aos seus irmãos americanos, dentro do que é peculiar a cada região. Mas isso é o primeiro passo. Agora mesmo vou tratar de lançar as bases para uma segunda exposição: a de esculturas americanas.

Esta coleção de esculturas será imediatamente exibida na Corcoran Gallery of Art, em Washington, ainda neste inverno, e logo depois em Nova York, na Central Art Gallery. Como a coleção de pinturas, ela fará o giro das Américas e será exibida nos museus mais importantes dos Estados Unidos. Mas não fica aqui o plano do sr. Thomas Watson, prestigiado pelo governo norte-americano.

Trataremos, em seguida, de uma exposição de cerâmicas pan-americanas. Cinco ou seis artistas em cada país. Essas cerâmicas vão ser exibidas em Nova York, na galeria de W. J. Sloane, uma das mais famosas da metrópole, em Dezembro deste ano. Depois irão para a American National Ceramic Exhibition Company que, com a International Business Machines Corporation patrocina essa bela mostra de arte, que percorrerá também toda a América, indo depois aos museus da América e do Canadá.

A parte mais grandiosa do plano de mr. Watson, informa ainda "mits" Smith, é a criação de uma cidade internacional em Indecott, Estado de Nova York, onde estão as fábricas da International. Vão ser construídos edifícios um para cada país do mundo, dentro do estilo e das normas da arquitetura, da decoração desses países. O primeiro a ser erigido será o do Brasil. Arquitetos, decoradores e fabricantes de móveis brasileiros desenharam esse ambiente que, futuramente, será um centro de propaganda e cultura. A Casa do Brasil terá mais ou menos 15 salas, e vai ser um lugar excepcional para os que quiserem estudar os costumes e cultura do vosso país. Estas salas, que serão apartamentos, receberão os hóspedes brasileiros de Indecott.

A idéia de mr. Watson vai além. Quer publicar uma série de volumes, um dedicado a cada país americano, com um resumo de toda sua atividade artística: pintura, escultura, arquitetura, decoração, etc. Claro é que a literatura e a poesia terão lá o seu lugar assinalado. Mr. Watson vai confiar prêmios às melhores produções escolhidas para o volume — concluiu a entrevistada.

Conforme noticiamos há dias realizar-se-á neste mês o Congresso Agrícola de Cotia, onde serão ministrados aos moços, noções de agricultura, higiene, cooperativismo etc. para se tornarem melhores agricultores. Sabemos agora que após esse congresso, será realizado durante uma semana, outro congresso dedicado exclusivamente aos moços. Nesse segundo Congresso será tratada a fundação de uma federação de cooperativa de moços como órgão controlador de todos os moços que trabalham na lavoura.

Um dia
1-VI-1941

Para este pequeno momento transitório, efêmero, palpitante, eu queria trazer, para os olhos ociosos que lêem estas minhas bobagens crônicas, o pensamento mais lindo, a idéia a mais linda que pudesse haver, oculta na tristeza e monotonia de mim mesmo.

Simple e linda, florescente, encontrá-la.

Há certos dias em que eu acho — mistério Divino — tão exquisiteiramente originais, e tão surpreendente e assustadoramente lindas até as coisas mais simples do mundo, — por exemplo, o céu, a flor, você, nosso amor — que fico tentado a repeti-las, repeti-las... Repeti-las, porque adquiro, para mim, um sentido imprevisível, uma forma nova... E a idéia imorredoura, encontrá-la na plenitude da simplicidade. Toda ela mesma, intemperada, enfeitada de si mesma, — como as coisas verdadeiramente singelas. Bailando, refulgindo, divina. Para trazê-la ao grande público, quis vesti-la, porque estava toda nua. Era preciso vesti-la, sim.

Mas, todas as palavras, com que tentei envolvê-la, eram transparentes demais... Como já disseram, também digo, assim...

Inolvidável idéia, toda minha, toda pura: — Fique comigo, peço-lhe, e só comigo e para mim, até... até quando os homens ceguem para se tornarem capazes de ver a Beleza. — M.

Schmelling não morreu!

O ex-campeão mundial de box se encontra na Alemanha

BERLIM, 30 (T. O.) — Ontem à noite, círculos autorizados informaram a "T. O." que Max Schmelling, o célebre pugilista, está vivo. Com isso, fica patenteada a falsidade das notícias segundo as quais fora feito prisioneiro pelos ingleses e fuzilado, quando pretendia emprender a fuga. Max Schmelling é cabo das tropas paraquedistas e foi dos primeiros a entrar em combate em Creta. Lançou-se na parte oeste da ilha e ali formou apesar das extraordinárias dificuldades encontradas, uma cabeça de ponte para os reforços esperados. Nos últimos dias viu-se afetado por ligeira enfermidade tropical, sendo recolhido ao hospital não havendo, entretanto, o menor perigo quanto ao seu pronto restabelecimento.

BERLIM, 30 (U. P.) — O "bo-xeur" alemão Max Schmelling numa entrevista concedida à imprensa, por intermédio de uma agência de propaganda alemã disse que o grupo de paraquedistas a que pertencia o incumbia de apoderar-se de um importante caminho e de uma penitenciária próxima, cujos

presos tinham sido postos em liberdade pelos britânicos e acrescentou: "Ao descermos fomos recebidos por um violento fogo das casas e das árvores, partindo o fogo de todos os lados".

Acrescentou que o grupo de paraquedistas apoderou-se da penitenciária sofrendo poucas baixas e manifestou: "Duas horas depois chegaram as primeiras tropas britânicas. A luta foi difícil porque estavam melhor armados do que nós que apenas dispunhamos de armas automáticas leves. A estrada que tínhamos em nosso poder continuou em nossas mãos e os britânicos tiveram que retirar-se". — Concluiu dizendo que as baixas foram muito numerosas para ambos os lados.

Presos tinham sido postos em liberdade pelos britânicos e acrescentou: "Ao descermos fomos recebidos por um violento fogo das casas e das árvores, partindo o fogo de todos os lados".

Acrescentou que o grupo de paraquedistas apoderou-se da penitenciária sofrendo poucas baixas e manifestou: "Duas horas depois chegaram as primeiras tropas britânicas. A luta foi difícil porque estavam melhor armados do que nós que apenas dispunhamos de armas automáticas leves. A estrada que tínhamos em nosso poder continuou em nossas mãos e os britânicos tiveram que retirar-se". — Concluiu dizendo que as baixas foram muito numerosas para ambos os lados.

As profissões no Brasil em diferentes épocas

O confronto dos resultados dos recenseamentos gerais de 1872, 1900 e 1920, referentes à atividade da população do Brasil, dá lugar a observações interessantes, apesar das notáveis divergências no modo de classificar as profissões. Pode-se notar como certos ramos profissionais passaram a compreender uma porcentagem crescente de indivíduos, enquanto outros não apresentam igual impulso progressista.

E' de ver o caso, por exemplo, dos serviços de transportes. Nas três datas diferentes, ocupavam-se nesses serviços respectivamente, 21.703, 71.966 e 253.587 pessoas, correspondendo às proporções millesimais de 4,06, 8,84, e 27,59. Sabido como se desenvolveram os transportes nos últimos 20 anos, ou, o que é bastante, como cresceu o número de automóveis, caberá provavelmente ainda a esse ramo de atividade o maior crescimento proporcional nos resultados do censo de 1940.

De 1872 a 1920 aumentaram também os coeficientes, por mil habitantes, das profissões — comércio, administração, exploração do solo e sub-solo e das profissões liberais, diminuindo os das indústrias e das pessoas que viviam de suas rendas. Desse último grupo havia 31.863 em 1872 e 40.790 em 1920, ou seja, na proporção, respectivamente, de 5,96 e 4,44 por mil habitantes, e não será de surpreender que tal decréscimo se tenha acentuado no censo ora em fase de apuração.

Quanto às indústrias, que em 1920 empregavam 1.189.357 profissionais, correspondendo a 129,40 por mil habitantes contra 783.752 ou 147,47 por mil em 1872, aparecerão agora com um contingente bem maior. De fato, o desenvolvimento industrial do Brasil se fez sentir com a força que este detalhe, apontado numa comunicação censitária de Goiás, demonstra suficientemente: só uma das cidades goianas tem hoje maior movimento

industrial do que todo o Estado em 1920, quando havia em Goiás apenas 16 estabelecimentos manufatureiros em que trabalhavam 244 operários.

Natalidade e vida rural

A crise de natalidade, constatada desde há mais tempo na Europa, tanto se generalizou que já há nove anos passados um escritor francês interrogava se a raça branca não estaria condenada a desaparecer. Argumentava então que as elevadas cifras de aumento da população produziam uma espécie de ilusão de ótica, pois, na realidade, o que havia desde o fim do século passado era uma diminuição sensível na natalidade compensada pelo aumento da duração média da vida humana.

Decorria daí a antevisão, que está fora de propósito, de uma Europa — e em seguida de um mundo — onde a redução das massas jovens e ativas se fará sentir como uma catástrofe.

O assunto é de palpante interesse para o Brasil, pois novo e ainda à espera de energias humanas para acelerar o seu desenvolvimento.

Em exaustivo estudo de reconstrução das nossas estatísticas populacionais, o consultor técnico da Comissão Censitária Nacional procedeu a uma retificação da distribuição por idade da população natural do Brasil, apresentando a conclusão, mais plausível do que a resultante dos dados conhecidos, de se ter verificado, no período de 1870 a 1920, o aumento rápido da população em virtude de diminuição da mortalidade e mais ou menos constância da natalidade.

Nos últimos tempos as estatísticas acusam decréscimo de natalidade nas capitais, enquanto no interior é ao mesmo tempo grande o movimento de nascimentos e óbitos.

Os resultados do censo de 1940 projetarão decerto a luz definitiva de que os 150 municípios balanos apresentam hoje, à observação imparcial, um índice de trabalho realmente apreciável.

tiva sobre a questão, de maneira a ficar demonstrado, provavelmente, que uma assistência cada vez melhor às populações rurais, cuja profligidade é conhecida, afastará do nosso futuro, graças ao decréscimo da mortalidade, a sombria perspectiva que na Europa já começa a ser uma realidade ruína.

Produção industrial do Mandchukuo

HSINGKING, 29 — Segundo anunciam os meios oficiais, os resultados obtidos no 4.º ano, dentro do plano quinquenal, para o aumento da produção industrial do Mandchukuo estão demonstrando por cifras elevadas que denunciam grande progresso, a despeito da situação desfavorável que a guerra européia acarretou. A produção dos metais não fêrreos, acusou um acréscimo de 100 por cento, ao passo que a produção de aço e carvão foi duas vezes superior em comparação com a do ano passado. No que se refere à produção agrícola e aos gêneros alimentícios, o aumento foi satisfatório.

Impressos ?
Procure a tipografia
NIPPAK-SHA
C. Postal 375 — Tel. 7-3325

JOSE SANT'ANNA DO CARMO

ELEMENTOS DE GRAMATICA JAPONESA

OBRA PATROCINADA PELO INSTITUTO BRASILEIRO DE CULTURA JAPONESA

日語に於て取次ぎ致します

勉強家の机上には是非この一書を

日本語文法書

この一書は日本語に造詣深いジョゼ・サンターナ氏が長年心血を注いで著した最高峰の日本語文法書

著者は専らブラジル人にして日本語入門者に便すべく発行したものであるが獨りブラジル人のみでなく、「遊亦真」か、日本人にしてブラジル語學者のこの上もない親切なガイである

定價(送料共)二十一ニル

Artigos para vestuários

Existiam no Brasil, até Julho de 1940, conforme as estatísticas do S. E. P. T. (Serviço de Estatística da Previdência e Trabalho), 12.723 fábricas de confecção de artigos para vestuário (alfaiataria, "atelier" de modas e bordados, chapéus, bengalas, flores artificiais e adornos, malharia, estofador e colchoaria, sacaria, peleria, capas de borracha, sapataria).

A fabricação de roupas e sapatos ocupava o primeiro lugar, a saber:

Fábricas Alfaiatarias	6.105
Sapatarias	4.424

São Paulo ocupava posição de destaque.

Pessoas que conhecem outros países, tendo por isso mesmo frequentado outros povos, afirmam que as roupas confeccionadas nesta capital, e bem assim os sapatos, nada ficam a dever aos mais afamados artigos congêneres. No que toca propriamente aos sapatos, sabemos que deles se abastece profusamente, nas lojas do Rio e da Paulicéia, os turistas americanos.

O cinema é, a este respeito, um documentário maravilhoso. Fazendo com que os povos desfilassem diante dos nossos olhos, surpreendidos quase sempre em suas atividades características, os "jornais falados" reforçam em nós a convicção de que em matéria de roupas e de calçados, quer para homens, quer para mulheres, estamos em condições favoráveis.

Logo depois de São Paulo, vem o Distrito Federal, Minas Gerais e o Rio Grande do Sul, cabendo-lhes, na estatística de artigos para vestuário, os lugares que se seguem:

Fábricas Distrito Federal	2.623
Minas Gerais	1.391
Rio Grande do Sul	865

A Baía ocupa lugar de bastante relevo, o que confirma a as-

simetria de que os 150 municípios balanos apresentam hoje, à observação imparcial, um índice de trabalho realmente apreciável.

(“Correio Paulistano”)

Produtos do Brasil para a Inglaterra

RIO, 29 — O diretor de Serviço de Economia Rural apresentou ao Ministro Fernando Costa a lista dos produtos brasileiros exportados para a Inglaterra, em 1940, relação pela qual se verifica ter o Brasil vendido 523.952.676 quilos de mercadorias, no valor de 860.141 contos de réis.

Para esse total, relativamente ao valor, a pecuária teve a maior contribuição. Cerca de 51 por cento das remessas está representado pelas carnes de bovino e derivados, ou sejam 440.288 contos; destacando-se os 177.509 contos de carnes de vacum em conserva (21 por cento), os 160.503 contos de carne vacum congelada (mais de 18 por cento) e os 42.129 contos de couros vacum salgados (quasi 5 por cento).

Também o algodão e seus subprodutos figuraram com destaque, perfazendo 20 por cento das vendas, ou sejam 241.243 contos, entrando o algodão em rama com 25 por cento, ou 218.399 contos.

As laranjas, a cera de carnaúba e as madeiras de pinho participaram com 2 por cento cada produto, ou a quantia global de 45 mil contos.

Nos restantes 15 por cento as maiores cifras são representadas pelo cristal, com 8.703 contos; o milho em grão, com 8.070 contos; as castanhas do Pará não dessecadas, com 7.550 contos; os diamantes, com 7.089 contos; a ipecaçuana, com 7.010 contos; a piassaba, com 5.525 contos; a cera de ouricuri, com 6.073; o minério de ferro, com 5.316 contos, etc.

Esses dados indicam ter o Brasil aumentado suas vendas para a Inglaterra, que em 1939, importou de nosso país 444 milhões de quilos contra 524 milhões em 1940. Além disso, refletem a preponderância dos produtos agro-pecuários nas remessas para o exterior, ressaltando, dessa forma, a posição marcante da agricultura nacional, que hoje atravessa uma fase renovadora, das mais auspiciosas.

NISEI NORTE-AMERICANOS

PHILL SHIRO NAITO

I I

Há mais de um ano dizia-me o nisei Eiji Tanabe, então presidente da Liga dos Cidadãos Nipo-Americanos:

— As estimativas realizadas pelos encarregados da Liga vieram nos mostrar que o número de nisei registrados como votantes no Condado de Los Angeles é o maior da história: 7.500. Temos para mais de sete mil e quinhentos nisei! Esse número, digo-lhe, é baseado na atual lista de nomes obtida das jurisdições de cada um dos cinco distritos. Várias centenas de nisei atingiram há pouco, antes, portanto, de ser encerrado o período para inscrição de votantes, a idade de 21 anos.

Mais um campo onde penetram os nisei.

Um dia, conversando com Togo Tanaka, editor da seção inglesa do "Los Angeles Japanese Daily News" ("Rafu Shimpo"), ativo movimentador dos nisei, ele me contou um sucesso recente daquele nisei que se chama Yoshio Fukuyama. Este, que é controversista colegial de Los Angeles e membro do Conselho Estudantino, classificou-se em quinto lugar no concurso nacional de oratória, realizado em Ogden, Utah. Na verdade, ser o quinto da Nação inteira, não é brincadeira. Fukuyama é o presidente da divisão "Theta", da organização forense nacional "Phi Rho Pi", no L. A. C. C. (Los Angeles City College).

Um exemplo de americanismo entre nisei é o "Credo de Lealdade dos Nisei", que foi redigido por Mike Massaoka, nisei de 24 anos, de Utah. Dirigente de debates na Universidade de Utah e presidente da seção de Salt Lake da Liga, Massaoka tem sido um líder dos portavozes dos nisei. O "Credo dos Nisei" foi comentado e lido por ocasião da instalação do "El Centro Citizens League", na Califórnia, tendo sido transcrito em seguida, no "Calexico Chronicle" e no "San Diego Sul". Também foi rádio-difundido pela estação KFWB, no programa de Valley Forum, por um representante do "San Francisco Speakers Bureau". Eis o "Credo", na íntegra:

deiro sustentáculo me faz apreciar mais que inteiramente as maravilhosas vantagens desta Nação. Criei nas suas instituições, ideais e tradições; gloriifico-a na sua herança; vanglorio-me de sua história, creio em seu futuro. Ela me deu uma educação de reis. Ela me confiou as responsabilidades da liberdade. Ela me tem permitido construir um lar, adquirir o pão de cada dia, prestar culto, pensar, falar e agir como me compraz, — como homem livre igual a qualquer outro.

Conquanto algumas pessoas possam fazer diferença, eu nunca me tornei pior ou perdi a fé, porque sei que tais pessoas não são as representantes da maioria do povo americano. Verdaderamente, farei tudo o que estiver em meu poder para desencorajar tais práticas, porém o farei com o espírito americano; abertamente, ao largo, através os tribunais judiciais, pela educação, preparando-me para ser digno de igual tratamento e consideração. Estou firme na minha crença de que o espírito desportivo americano e a atitude de jogo lícito julgarão a cidadania e o patriotismo na base da ação e das realizações, e na base das características físicas.

Porque creio na América, eu acredito que ela creia em mim, e porque recebi inúmeras benéficas dela, eu empenho em fazê-la honrada em todos os tempos e em todos os lugares; a sustentar a sua constituição; a obedecer às suas leis; a respeitar a sua bandeira, defendê-la contra todos os inimigos, estrangeiros e nacionais; a cumprir fielmente os meus deveres e minhas obrigações como cidadão, jornalista e sem quaisquer reservas, na esperança de que eu possa vir a ser um melhor Americano numa maior América.

Outro genuíno americanismo é a proclamação que surgiu da convenção nacional dos nisei, realizada em Portland, Oregon. E' assim:

"Considerando que os cidadãos americanos de ancestrais japoneses, por pensamento e ação unânime, são cidadãos leais dos Estados Unidos; e considerando que é desejo de todos os cidadãos americanos de ancestrais japoneses mostrar sua fidelidade e obediência aos Estados Unidos; Seja resolvido que a Liga dos Cidadãos Nipo-Americanos em assembléia geral em Portland Oregon, r' firme sem nenhuma reserva nossa obediência à Constituição dos Estados Unidos e aos nossos ideais e às nossas instituições americanas".

Bonito. Tudo muito bonito e muito verdadeiro. Tão verdadeiro e bonito quanto a própria Moçidade.

NISEI NORTE-AMERICANOS
II — 2
"Eu me ufano de ser um cidadão americano, de linhagem japonesa, porque o meu verda-

Produção brasileira de óleo de oiticica

RIO, 29 — A oiticica, riqueza nativa do Nordeste, onde reside às secas mais rigorosas, é um dos mais recentes produtos de exportação lançados pelo Brasil nos mercados mundiais.

Essa palmeira, que às vezes atinge mais de 30 metros de altura, é hoje famosa pelo óleo precioso extraído de suas sementes, um substituto perfeito do óleo de tungue dos chineses.

Hoje, mais de 35 mil contos estão empregados nessa indústria, com cerca de 20 fábricas, das quais 14 no Ceará e as restantes na Paraíba, Rio Grande do Norte e Piauí, tendo capacidade para consumir mais de 80

mil toneladas de sementes, por ano.

O aproveitamento dessa riqueza modificou a fisionomia econômica e comercial de muitos trechos e cidades do interior nordestino.

A produção de oiticica tem sofrido oscilações bruscas, sendo uma exploração que carece sair da fase extrativa para a cultura sistemática. Inicialmente, porém, surge a dificuldade do lento crescimento da árvore e da longa distância entre a germinação e a primeira colheita.

Em consequência da irregularidade na produção de sementes de oiticica, variável, naturalmente, tem sido a produção do óleo.

Segundo informa o Serviço de Estatística do Ministério da Agricultura, em 1935, produziram desse óleo 1.043.642 quilos, no valor de 2.103 contos; em 1936, 6.290.038, no valor de 13.827 contos; em 1937, 206.831 quilos, no valor de 6.377 contos; em 1938, 16.190.787 quilos, no valor de 42.057 contos. Em 1939, o Brasil registou apenas a produção de 3.164.325, no valor de 9.996 contos. Para o total de 1937, o Ceará concorreu com 2.522.976 quilos, no valor de 3.472 contos de réis, ou seja cerca de 80 por cento da produção nacional.

Este milreis é milagroso

Srs. Lavradores!

CADA MILREIS que Vc. Sr. empregarem na aquisição do conceituado ADUBO "PRODUTOR", converter-se-á em muitos outros, compensando fartamente o seu árduo trabalho, o custo da sua lavoura e o capital nela empregado.

Na preparação do ADUBO "PRODUTOR" são utilizados volúveis elementos químicos, em perfeito equilíbrio com precisos elementos orgânicos.

O ADUBO "PRODUTOR" é um adubo racional e o emprego desse fertilizante restitui ao solo os elementos nobres indispensáveis às boas produções.

"PRODUTOR" melhora a qualidade do algodão e aumenta a produção, diminuindo, pois, o custo por alqueire.

Desejam Vc. Sr. conseguit, em área mínima, produção máxima de Algodão? Apliquem, no solo, algodão, o ADUBO "PRODUTOR".

ADUBO PRODUTOR

INFORMAÇÕES E VENDAS
ANDERSON, CLAYTON & CIA. LTDA.
CASA FUNDADA EM 1908 - TEL. 2-6181 - SÃO PAULO - em suas AGÊNCIAS E FILIAIS

Campeonato Brasileiro de Base-ball

A participação da tu ma vencedora do ano passado As preliminares da Sorocabana

O Campeonato Brasileiro de Base-ball do corrente ano, vai ser realizado nos dias 29, 30 e 31 de Agosto, em São Paulo. De-la participarão os representantes de Noroeste, Sorocabana, Paulista, Paraná, Mogiana, Sul de São Paulo e São Paulo. Além desses 7 "teams" tomará parte no Campeonato o "team" vencedor do ano passado.

A equipe da Mogiana, entretanto, parece que não conseguirá realizar os jogos preliminares, o que a impossibilitará de tomar parte no Campeonato.

OS JOGOS PRELIMINARES DA SOROCABANA

A filial do C. A. C. da Sorocabana resolveu realizar os jogos preliminares da zona nos dias 10, 11 e 12, no "ground" de Presidente Prudente.

Desses jogos participarão os seguintes "teams": Paraguassú, Pres. Prudente, Ourinhos, Alvares Machado Santa Cruz do Rio Pardo, Pres. Bernardes, Rancheira, Santo Anastácio, Martinópolis e Pres. Wenceslau.